

学科 学年	S 3 C 3	科目 分類	歴史 HISTORY	講義 必修	20通年 2単位	学習教育 目標 (A)	担当	黒川 幸男 KUROKAWA YUKIO
概要	2年連続講義の後半部。前年度に世界の古代史とアジアの中世史・近代史を既習しているため、その学習成果を継承し、今年度はヨーロッパの近代史を前期に帝国主義時代以降の世界の現代史を後期に学習する。常に日本の歴史を関連して学習する。歴史の必然性や偶然性を学び認識力を深め判断力を養い教養を培う。史料講読を学習の基軸として歴史に関する知識を深める。研究を奨励し主体的学習を推進する。							
科目目標 (到達目標)	近代史と現代史の学習を通じて歴史的思考力や国際的な視野を培い、歴史に主体的にかかわる意識を養うことを目標とする。							
教科書 器材等	高校世界史B改訂版、佐藤次高・木村靖二・岸本美緒 共著、山川出版社、最新世界史図説タペストリー、帝国書院、史料プリント							
評価の基準と 方法	定期試験70%、授業態度30%(課題レポート、研究発表を含む)。60点以上を合格とする。							
関連科目	地理、古典、英語							
授業計画								
	参観	(授業は原則として教員が自由に参加できますが、参観欄に×印がある回は参観できません。)						
第1回		ガイダンス・ヨーロッパ中世前期(ゲルマン民族、ヴァイキング、封建社会)						
第2回		ヨーロッパ中世変化(十字軍、都市、教会、農民反乱、ペスト)						
第3回		ヨーロッパ中世後期(百年戦争、中央集権化)						
第4回		日本中世史(建武新政、尊氏、応仁の乱、一揆、都市、戦国、信長、秀吉、家康)						
第5回		ヨーロッパ近代史(大航海時代、ルネサンス、宗教改革)						
第6回		ヨーロッパ近代史(絶対主義、主権国家、歴史の不均等発展の法則)						
第7回	×	定期試験						
第8回		ヨーロッパ近代史(資本主義、植民活動)						
第9回		ヨーロッパ近代史(イギリス・フランス・アメリカの市民革命)						
第10回		ヨーロッパ近代史(産業革命、1848年、ナショナリズム)						
第11回		ヨーロッパ近代史(国民国家、ドイツ・イタリア・ロシア・アメリカの近代化)						
第12回		江戸時代(幕藩体制、鎖国、産業、交通、享保・寛政・天保の改革、教育、学問)						
第13回		幕末(雄藩、開国、開港、尊皇攘夷、討幕)						
第14回		課題レポート発表						
第15回	×	前期末試験						
第16回		明治維新(四民平等、徴兵制、地租改正、殖産興業、文明開化、条約改正)						
第17回		帝国主義(産業構造の高度化、独占資本、金融資本)						
第18回		世界分割(植民地主義、アフリカ分割、中近東、インド、中国、南米、太平洋)						
第19回		日露戦争(国際対立の歴史的転換、日英同盟、アジア民族運動覚醒)						
第20回		第一次世界大戦(帝国主義戦争、大量殺戮兵器の登場、民族自決)						
第21回		ロシア革命とソ連(社会主義革命、スターリン体制)						
第22回		満州事変(ワシントン体制、日本外交の挫折、昭和恐慌、金解禁、国連脱退)						
第23回	×	定期試験						
第24回		1930年代(ヴェルサイユ体制の破滅、世界恐慌、ファシズム)						
第25回		第二次世界大戦(世界は地獄をみた、国民戦争、植民地解放戦争)						
第26回		太平洋戦争(日中戦争、三国同盟、日米戦争)						
第27回		占領政策(極東国際軍事裁判、GHQ、日本国憲法、教育基本法)						
第28回		戦後改革(農地改革、財閥解体、労働運動、婦人解放)						
第29回		研究発表						
第30回	×	後期末試験						
オフィスアワー	金曜日に質問等に対応する。							
授業アンケートへの対応	基本事項の確認、発問回答の励行、読書の推進、研究成果の発表							
備考	なし							
更新履歴	20080314 新規							